

Kansai  
10月号  
780yen

# 樽 の 蕎麦

作り手と使い手が築いていく物語  
愉悅のオートグラーメイド





祖母が着ていた着物で、和風日傘をオーダーした馬場さん。

# 和傘

改めて、和傘とはなんと美しいものなのだろう。放射状に広がる竹組、光を透かす和紙の風合い……。しかし、大半の人はビニール傘で間に合わせてしまう。そこで、江戸時代後期から続く京和傘「日吉屋」五代目主人・西堀耕太郎さんは、日常的に使用できる和傘を考え、その結果、オーダーメイドの和風日傘が誕生したのである。

着物生地持ち込みで日傘をオーダーした馬場千里さんは、「亡くなった祖母がたくさんの着物を持っていて、このまま置いておくのなら、何か別のものに……」とオーダーしたきっかけを話してくれた。おばあちゃん子だった馬場さんにとって、それは思い入れいっぱいの日傘となった。

さらに、「伝統とは革新の連続である」という言葉を座右の銘とする西堀さんが考案したものがある。そのモダンなデザインで、今や世界的にも認められつつある、和傘の技術に応用した照明器具だ。

「和風照明 古都里・KOTORI」と名付けられたそれは、ライトを点けると竹の骨組に張られた和紙の美しい模様浮かび上がる。もちろん生地を持ち込みも可能。部屋で日常的に使う照明なら、その生地に宿る思い出や愛着はいつまでも色褪せることがないだろう。

「日吉屋」の2階の工房では、身の丈はあろうかと思われる大きな野点傘作りの真っ最中だった。



和室にも洋室にも馴染む和風照明  
古都里・KOTORI。

和傘の技術を現代に活かす  
伝統工芸というモダンデザイン



優しいクラフトの秘密は

フにした椅子。影刻刀で彫っている。

## 日吉屋

住所 京都市上京区  
寺之内通堀川東入ル百々町 546  
電話 075-441-6644  
営業時間 10:00～18:00  
定休日 年末年始のみ  
料金 和風日傘 (スライドショート)  
2万6250円～、KOTORI 自立式  
スタンド 3万9900円～  
※生地持ち込みの場合価格は異なる  
交通 地下鉄烏丸線  
今出川駅より徒歩 15分

